



グリーンレター Green Letter

Green Column グリーンコラム

01 サケがいない今年の川だけど

02 今年も会いたい植物

Vol.332

2025/03/01



町田善康《雪まみれの顔がカワイイ》

Photo 今月の1枚

森の中を歩いていると、1匹のキタリス（エゾリス）に出会いました。とっても寒い朝なのに、そんな寒さはものともせず、雪をほじくっていました。おそらく、秋に埋めた木の実などを探しているのでしょう。その時、ふと顔を上げると雪まみれ。思わず「カワイイ」と笑みがこぼれました。（町田善康）



01 Green Column グリーンコラム

サケがない 今年の川だけど

写真・文／町田善康

美幌町内を流れる美幌川には、毎年たくさんのサケが遡上し、自然産卵します。しかし、今年は、どういうわけか秋になってもほとんどサケが遡上してきませんでした。いつもだったら足の踏み場もないほどサケであふれるあの川も、この川も全くサケがないのです。

ところが、12月上旬になると、突然たくさんのサケが遡上してきました。その後、年を越してもサケを見ることができ、こんなに寒い時期までサケが見られたのも、これまた初めての年になりました。

では、なぜ今年はサケの遡上が少なかったのでしょうか？実は、美幌川を含む網走川水系では、網走市内にある下流の捕獲場でサケを捕まえ、上流の津別町相生と上里にある孵化場で人工授精を行い、サケの稚魚を育てています。例年だと、大雨などによる増水で

捕獲場に設置した簀（やな：サケを捕獲するための罟）を外します。そのタイミングにサケが遡上できていたのですが、今年は雨が少なく、簀が外れず遡上の機会がなかったのです。そのため、美幌川に遡上するはずのサケも一緒に簀で止められ、遡上できていなかったわけです。

しかし、12月に入り人工授精用の予定採卵数が確保できると、簀が外されると同時にサケが大量に遡上しました。おかげで、美幌川でもたくさんのサケが産卵しました。いつものように産卵するサケを見てホッとするとともに、来春、無事に孵化してくれることを祈るばかりです。

今年も 会いたい植物

写真・文／城坂結実



なんとなく日差しに春を感じる
なようになりました。春を間近
にすると、今年も出会いたい！植物を
思い浮かべて、ワクワクします。

昨年、美幌町^{といえ}登栄地区の森を調査した時のこと。7月中旬、^{ささやぶ}笹藪をかき分けながら歩いていたところ、ぼったり出くわして、ヒッと驚いた植物があります。それは、ギンリョウソウ。植物を見て驚くなんて…と不思議に思う方もいらっしゃるかもしれませんが、ギンリョウソウはユウレイタケ(幽霊茸)の異名を持ち、その姿形は一般的な植物とかけ離れています。

ギンリョウソウは、緑色の茎や葉を持たず、全体は透明に近い白色。しかも、花は首をもたげるようにやや^{うつむ}俯き加減で開き、花の中心にある雌しべは目玉のよう。幽霊の名に恥じることはない外見です。

と、ここまで書いてから、私が出会っ

た写真の植物は、ギンリョウソウによく似たシャクジョウソウだということに気がきました。植物愛好家の皆さんは、ここまでハラハラしながら読んでくださったに違いありません。

ギンリョウソウは花が1個で雌しべの先は黒色なのに対して、シャクジョウソウは花が数個つき、雌しべの先は黄色。危うく間違

Exhibition 展示

企画展「～美幌町の小中学生による～博物館冬季作品展」

3月2日（日）まで

ロビー展「ひな祭りとひな人形」

3月2日（日）まで

特別展「蛍が舞う風景」

3月29日（土）～10月26日（日）まで



Event イベント

持ち物等は申込時にご確認ください

スノーシューレンタル

3/30（日）まで 9:30～15:00

美幌博物館 受付・無料

対 象／ご本人あるいは同伴者にスノーシューの経験がある方、
靴のサイズ 24.5cm～28.5cm（18才未満は保護者同伴）
申込み／申込み不要。先着 5 名。

プチ工房「化石発掘体験」

3/7（金）、8（土）10:00～12:00、14:00～16:00 自由入室で作品
ができ次第終了